

日経メディカル

医師 若手医師 看護師 薬剤師

オンデマンド Web講演会 調査 企業求人

医師T NEWS & REP 連載・コ 特設サ (医療経営/ 学会カレン 処方薬 Loun サー  
OP ORT ラム イト 痛他) ダー 事典 ge ビス

お知らせ > COVID-19最新情報はこちら!

医師TOP > NMO処方サーベイ > 抗不安薬、依存性に不安もエチゾラム人気は代わらず

NMO処方サーベイ

+ 連載をフォロー

抗不安薬◇第5回調査

## 抗不安薬、依存性に不安もエチゾラム人気は代わらず

1位はエチゾラム、2位はアルプラゾラム、3位はクロチアゼパム

2022/01/08

精神・神経

処方サーベイ 抗不安薬

印刷

シェア0

0

ツイート

日経メディカル Onlineの医師会員を対象に、抗不安薬のうち最も処方頻度の高いものを聞いたところ、53.4%の医師がエチゾラム（商品名：デパス他）と回答した。

第2位のアルプラゾラム（コンスタン、ソラナックス他）は11.3%、第3位のクロチアゼパム（リーゼ他）は8.5%、第4位のロラゼパム（ワイパックス他）は8.4%の医師が、最も処方頻度の高い薬剤として選んだ。

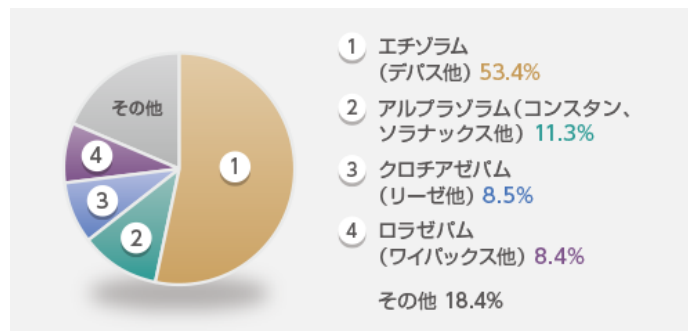


図1 日経メディカル Onlineの医師会員が最もよく処方する抗不安薬（処方経験のない1521人を除いて作成）

グラフには示していないが、5位以下は次の通り。

- ・ジアゼパム（セルシン、ホリゾン他） 6.5%
- ・ロフラゼパ酸エチル（メイラックス他） 5.0%
- ・オキサゾラム（セレナール） 1.6%
- ・クロキサゾラム（セバゾン） 1.2%
- ・タンドスピロンクエン酸塩（セディール他） 1.2%
- ・プロマゼパム（レキソタン他） 1.0%
- ・クロラゼパ酸二カリウム（メンドン） 0.5%
- ・クロルジアゼポキシド（コントロール、バランス他） 0.4%
- ・メキサゾラム（メレックス） 0.4%
- ・フルトプラゼパム（レスタス） 0.2%

- ・フルジアゼパム（エリスパン） 0.2%
- ・フルタゾラム（コレミナル） 0.1%
- ・メダゼパム（レスミット他） 0.1%

なお、トップ3は調査開始（第1回調査（2015年10月）、第2回調査（2017年9月）、第3回調査（2018年8月）、第4回調査（2020年5月））から変動していないが、第3位のクロチアゼパムと第4位のロラゼパムのポイント差は0.1と僅差だった。

【調査概要】日経メディカル Online の医師会員を対象にウェブアンケートを実施。期間は2021年12月18日～24日。有効回答数は7571人。内訳は病院勤務医5643人、診療所勤務医922人、開業医848人、その他158人。

### 第1位のエチゾラムを処方する理由

（デパス他）

- ・抗不安薬はなるべく処方したくないが、休薬できないため処方継続となっている。デパスは以前から内服している患者に処方する頻度が多いのが現状である。（50歳代診療所勤務医、一般内科）
- ・他の薬剤と比較して、短時間で効果が切れる印象であり、副作用を考慮すると短いほどよく、また効果も実感する。（30歳代病院勤務医、総合診療科）
- ・使いやすい。ただし、依存しないように当科では最小限に。必要なら心療内科を紹介する。（40歳代病院勤務医、泌尿器科）
- ・やはり依存性の点から使用頻度は減ったが、どうしても必要と訴える患者が居る。（60歳代病院勤務医、一般内科）
- ・効果は問題なく、使い慣れているためよく処方している。（60歳代病院勤務医、一般内科）

### 第2位のアルプラゾラムを処方する理由

（コンスタン、ソラナックス他）

- ・眠気が強いのが難点だが、逆に不眠を併発している不安症の患者にとっては有用であり、また弱いながらも抗うつ効果を有する点で気に入っている。（50歳代開業医、一般内科）
- ・できるだけ長期連用とはせず頓服での処方を心がけているが、効果が比較的強く患者満足度が高い上、エチゾラムほどの依存性はないと感じる。（50歳代病院勤務医、精神科）
- ・筋弛緩作用が軽く、デパスやレキソタンのような強い依存性がない。（60歳代診療所勤務医、心療内科）
- ・副作用が少ないわりに効果が高いところが気に入っている。（40歳代病院勤務医、精神科）

### 第3位のクロチアゼパムを処方する理由

（リゼ他）

- ・効果がやや穏やかで、不安症状の軽減に役立つことや高齢者に使用しやすい印象。（40歳代診療所勤務医、総合診療科）

・半減期が比較的短く効果もまあまあ期待できるところが気に入っている。（60歳代病院勤務医、精神科）

・眠気などの副作用が少なく、症状改善を認めることが多い点が良い。（40歳代診療所勤務医、産科・婦人科）

#### 第4位のロラゼパムを処方する理由

（ワイパックス他）

・中間型で、あくまで比較ではあるが、依存を形成するリスクが低いのではないかと考えている点、代謝の影響を受けにくい点が気に入っている。短時間型ではクロチアゼパム、定期薬として使う場合はロフラゼブを使用している。（30歳代診療所勤務医、精神科）

・ここ数年、ベンゾ系抗不安薬は極力使用しないようにしているが、新規処方や別のベンゾ系から置換する時は、グルクロン酸抱合といわれているロラゼパムを処方している。（50歳代病院勤務医、心療内科）

・以前使用して、比較的効果が良好だったのでよく使っている。（30歳代病院勤務医、腎臓内科）

1

## 連載の紹介

### NMO処方サーベイ

NMO処方サーベイでは、日経メディカル Onlineの医師会員を対象に毎週実施している調査の結果を基に、全国の医師がどのような薬剤を最もよく処方しているのか、また、その理由をご紹介します。医師会員の先生方は、ぜひ調査にご参加の上、NMO処方サーベイの結果を日々の診療にお役立てください。

→医療・医薬関係者向け『日経メディカル処方薬事典』はこちら

⊕ 連載をフォロー

## この連載のバックナンバー

### C型肝炎市場でマヴィレットが首位に浮上

2022/03/12

### 脳循環代謝改善薬市場でアデホスがシェア拡大

2022/03/05

### 尿酸排泄促進薬市場で新星ドチヌラドがベンズプロマロンに迫る

2022/02/26